

2009 コンクリート製品ジャンボリー(JPCJ)の開催趣旨

2009 JPCJ実行委員会

2009
日本コンクリート製品ジャンボリー
Japan Precast Concrete Jamboree



プロローグ

さあ、コンクリート製品の、ネクストステージへ
そして、私たちは明日から変わる。

2009年5月21日(木) 1900pm-
At 東京會館

Sponsored by




本日の内容



- 1900pm- 開会
- 懇親
- 1915pmごろ、主旨説明、開会宣言、乾杯
- 懇親
- 1945pm- 挨拶(3名)
- 懇親
- 2100pm 挨拶 閉会

本日の概要



- 協賛社数(協賛金) 29社(390万円)
- 後援団体数(支援金) 62団体(73万円)
- 出席者数 450名

2009
日本コンクリート製品ジャンボリー
Japan Precast Concrete Jamboree



主旨説明

さあ、コンクリート製品の、ネクストステージへ
そして、私たちは明日から変わる。

2009年5月21日(木) 1900pm-
At 東京會館

Sponsored by



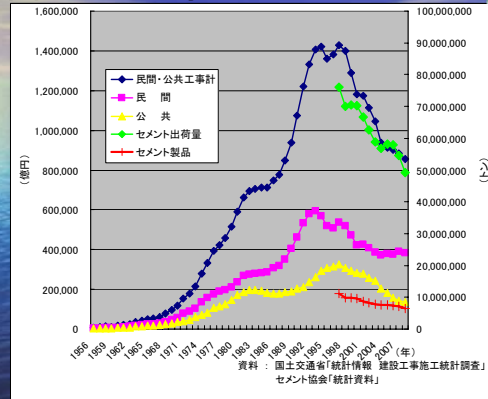
現在

- 公共・民間事業の減少によるマーケットの縮小
- バブル期の投資による設備の過剰
- 規格(JIS規格・業界規格・自治体規格等)の混在
- 業界団体の財政難・縮小・混迷・閉塞化
- 社会のニーズに逆行したプレキャスト比率の低下



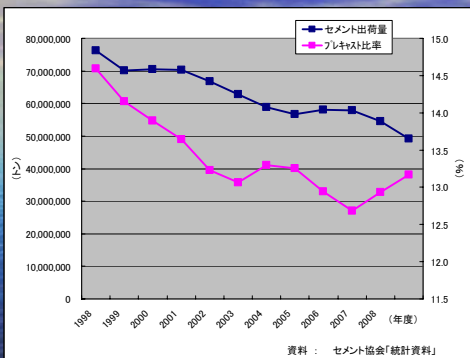
私たち、コンクリート製品を取り巻く、環境は、公共・民間事業の減少によるマーケットの縮小、バブル期の投資による設備の過剰、JIS規格・業界規格・自治体規格等の混在、業界団体の財政難・縮小・混迷・閉塞化、社会のニーズに逆行したプレキャスト比率の低下など大変厳しい局面を向かえております。

民間・公共工事(建築・土木含む)の激減



少し具体例を見てみましょう。国土交通省 建設工事施工統計調査によりますと、民間、公共工事をあわせた工事額は1996年度(平成8年)を100とすると、2007年度(平成19年度)は60%、公共工事は42%にまで減少してしまいました。これに伴い、緑の折れ線、セメント出荷量も減少しています。

セメント出荷量・プレキャスト比率

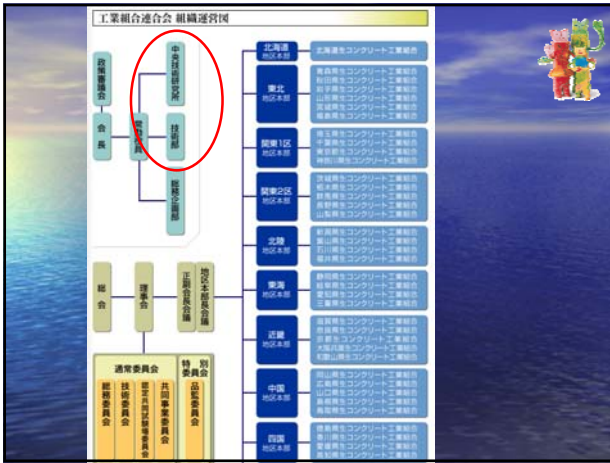


建設工事額減少に伴い、セメント出荷量が減少することは理解できますが、ピンクの折れ線、プレキャスト比率の落ち込みが顕著となっております。2008年(平成20年度)は13.2%ですが、これは欧米の比率よりも著しく低い値となっております。このように、コンクリート製品を取り巻く経済環境は年々悪化していくにつれて、製品業界各社の業績も悪化し...

ばらばらで、まとまっていないので、力を発揮できない



...各協会・団体では、会員の脱退が相次ぎ、規模を縮小しても、財政的に危機的な運営が行われているところも少なくありません。一方、コンプライアンスの厳格化、規格改訂、限界状態・性能照査型設計法への移行など、業界としてやるべき仕事は反比例的に増加しています。しかし、コンクリート製品業界のまとまりがない故に、各団体で重複した業務や、意見がまとまらず、情報発信が出来ない状態になっています。



同じ、コンクリート業界である、生コンクリート業界では、各地域の工業組合を束ねた連合会を組織し、独自の技術部、中央研究所を持ち、生コンの品質向上に貢献しています。

品質管理監査制度 (品質)

3)会議の構成

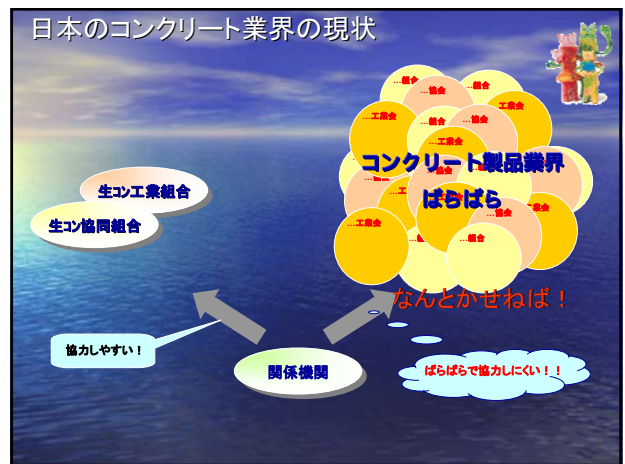
全国会議及び地区会議の構成は、表-2のとおりである。

	全国会議	地区会議
議長	学識経験者	学識経験者
副議長	学識経験者	学識経験者又は特別委員
特別委員	経済産業省 農林水産省 国土交通省 日本道路公団 全国建設業協会 日本土木工業協会	同左出先機関及び都道府県
生産者側委員	原則として特別委員と同数	原則として特別委員と同数

また、「適(まるてき)マーク」を産学官による第三者機関、「全国生コンクリート品質管理監査会議」において、経済産業省、農林水産省、国土交通省、学識経験者等を外部委員として監査組織を運営し...



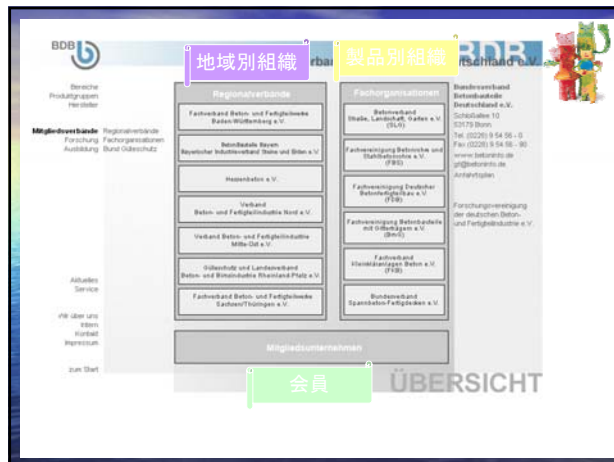
「適(まるてき)マーク」工場を原則使用することが、国土交通省、農水省、土木学会、日本建築学会関連での、各仕様書に明記されることに成功しています。



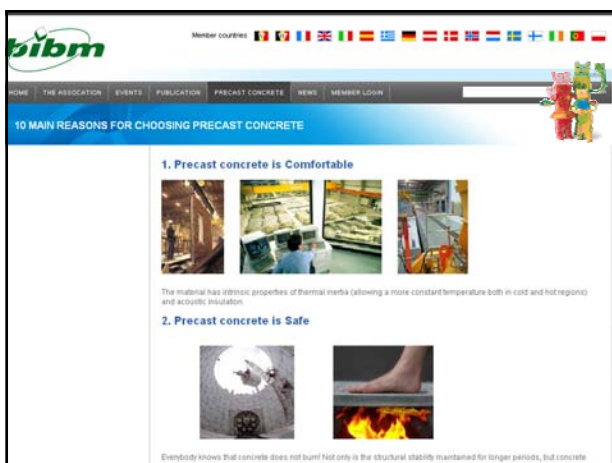
このように、まとまりがある生コン業界に比べ、コンクリート製品業界は製品種類が多いので、わかりにくい上に、まとまってないので、関係機関も協力しにくい状況なのです。



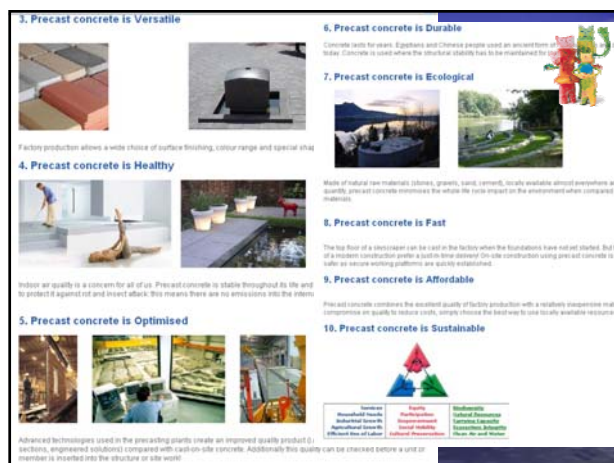
では、海外ではどのような状況なのでしょう？
 これはドイツのコンクリート協会、BDBのホームページですが、ご覧いただいている図のように、土木・建築などすべての製品を包含した団体となっています。

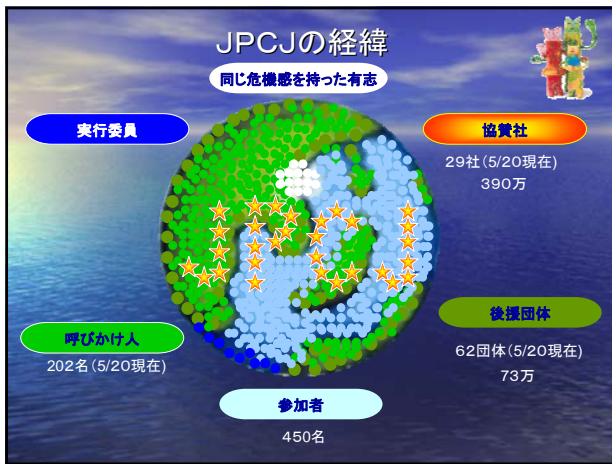


多数の製品を6つの製品別分科会にグルーピングし、更にドイツ全域を7つにエリア分けした組織で、活動しているようです。



これは、上記の国旗が示すように、17カ国のコンクリート製品協会が団結し、EU全体のコンクリート製品協会、BIMB(ビーアイ・ビーエム)が組織され、コンクリート製品のメリットをこのようにホームページでPRしています。アジア地域に例えれば、日本が中心となってアジア諸国の製品協会と連携して、コンクリート製品の普及活動を行うようなことがすでに、EUでは実現しているのです。





「なんとかしなければ・・・」、このような業界の危機感を共有した有志が集まり、日本コンクリート製品ジャンボリー(JPCJ)の実行委員会が2009年12月編成されました。その主旨を仲間に伝え、また次の仲間に伝える...。この呼びかけ人を通して仲間を増やし続けながら、スポンサーである協賛社、後援団体が次々に集まり、本日、総計450名の参加者が集い、これからの業界のきっかけ作りの場を作り出す運びとなりました。厳しい現状を共有し、未来に向けた議論ができればと願っています。

NEXT.1

2009年

試案作成の過程、背景、必要性、重要性、今後を考える。

「無筋及び鉄筋コンクリート製品の性能照査型設計法試案」をきっかけに経営者、営業研修の実施へ

技術者向け

2009. 6. 5 - 6. 26
札幌 / 仙台 / 東京
大阪 / 福岡で開催

経営者・営業向け

2009. 7. 29
東京国際フォーラム
で開催

経営者討論会も実施!!

現在、コンクリート製品JIS協議会にて作成中の、「無筋及び鉄筋コンクリート製品の性能照査型設計法試案」は限界状態設計法への移行を踏まえた、初めてのオーソライズされたコンクリート製品設計法になることに違いありません。JIS協議会では技術者向けに精度を高めるための講習会を来月6月に開催いたしますが、7月29日に、全国コンクリート製品協会企画委員会主催で、経営者・営業向けに講習会を開催予定です。なぜ、性能照査型設計法なのか?、どのような背景で、作成され、これからどのように活用されていくのか? さらに、製品の枠を超えた、経営者討論会を開催し、コンクリート製品業界のビジョン、ミッション、戦略、課題などを共有していくとのことです。

NEXT.2

2010年

「日本コンクリート製品フォーラム」の開催へ

～「ジャンボリー」から「フォーラム」へ～

- 業界を活性化、合理化する場を提供するシステムの確立
- 集中的な総会の開催とオープンな交流の場を創出
- オールプレキャストの視点で未来を創造する情報交換と討論

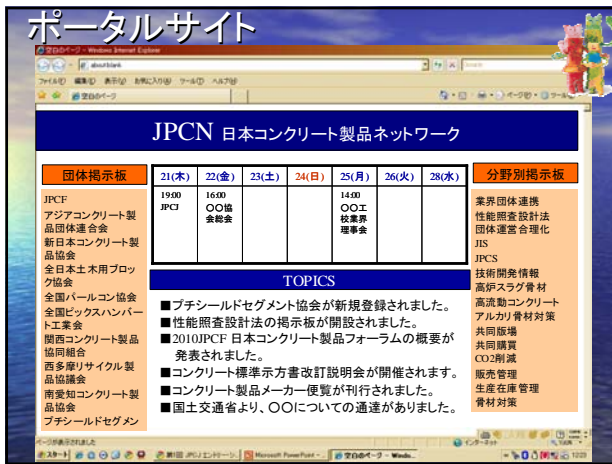
次のステップとして、来年、2010年は「日本コンクリート製品フォーラム」へ進化し、コンクリート製品全体が活性化・合理化する場を確立します。

「2010 日本コンクリート製品フォーラム」(仮称)

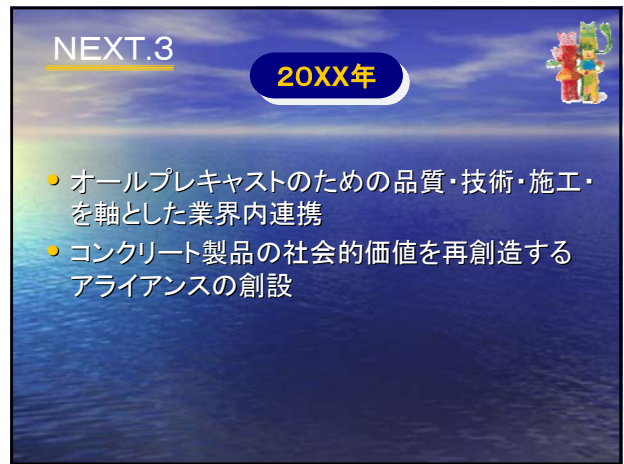
時間	1日目		2日目		3日目	
	A-ROOM	B-ROOM	A-ROOM	B-ROOM	C-ROOM	A-ROOM
9:00-10:30	8039					
10:30-10:45	1019					
10:45-11:15	8039		分科会1	総会(1)		総会(1)
11:15-13:00	5039		休憩			休憩
13:00-14:30	8039	総会(2)	分科会2	総会(2)	展示	分科会2
14:30-14:45	1019		休憩			休憩
14:45-15:15	8039	分科会2	分科会2	総会(2)		分科会2
15:15-15:30	1019		休憩			休憩
15:30-15:45	13039		分科会2	総会(2)		分科会2
15:45-18:30	1019		講演会	休憩		
18:30-20:30	13039		2日目閉会	レセプション(入場無料)		

- 各団体の合理的な総会、懇親会の開催にご活用ください。
 - 総会を集中開催し、出張、懇親会等、時間的、経済的負担を軽減するサポートします。
- オールプレキャストの視点で情報を提供します。
 - 製品発表会・講習会(協賛会社を中心)
 - 技術的課題
 - 公共工事、業界の話題
- 意見交換会

まだ仮の日程ですが、2010年5月19～21日の3日間で集中的に総会、合同懇親会を実施していただき、出張費、懇親会費など経済的・時間的負担を削減。設備、材料、型枠などの最新の情報を得られる研修会、さらに、業界、技術動向などのセミナーを開催し、「オールプレキャストの視点」での研修を実施。今後の製品業界の行く末を議論する場作り提供などが計画されておりますのでぜひ、ご参加ください。フォーラムはみなさまの来年の総会日程、時間調整に早速、協力させていただきます。



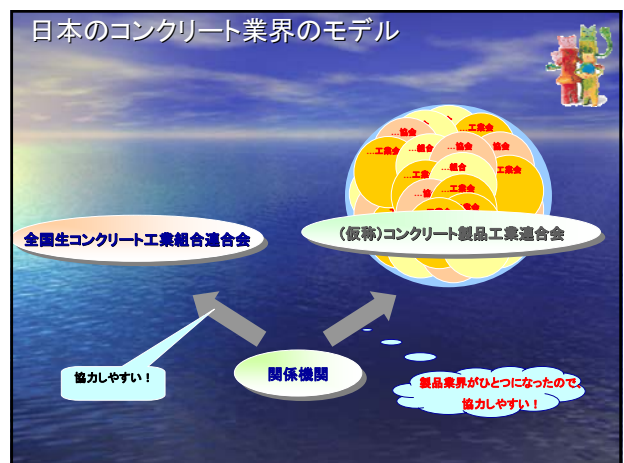
日本コンクリート製品フォーラムは、現実的な場の提供ですが、その一方で、WEB上のコンクリート製品業界の共通プラットフォームの設置を準備中です。各種団体にご利用頂くスケジュール表や団体掲示板の機能、企業や業界団体の枠組みを超えた情報交換に活用頂く分野別掲示板の機能を軸に、さまざまなサービスを提供する予定です。2009年9月に試験稼働できるよう準備を進めてまいります。



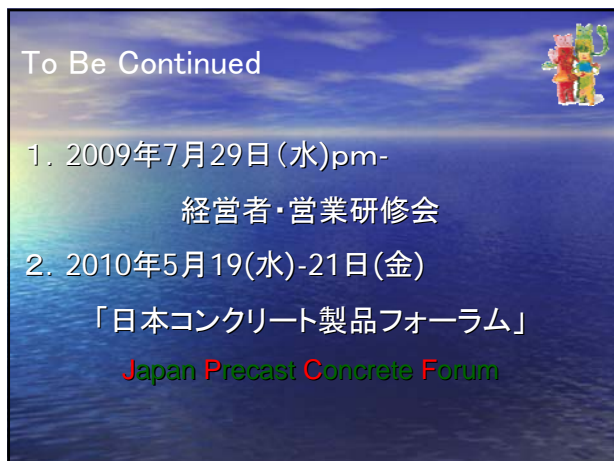
そしてさらに、次のステージとして、オールプレキャストのための品質、技術、施工を軸とした業界内連携の支援、コンクリート製品の付加価値を高めるアライアンスの創設を支援したいと考えています。



具体的なイメージとしては各関係機関が応援しやすいように、コンクリート製品業界がなんらかの枠組みで連携をとるのです。これだけの応援団がフルサポートしていただければ、必ずや業界の地位向上につながると思えます。



関係機関の視点から見れば、コンクリート業界は、「生コン」と「コンクリート製品」の二つに大別され、製品のことであれば、なんでも相談しやすい関係を容易に作り出すことができます。



最後になりましたが、7月29日、全国コンクリート製品協会 企画委員会主催の経営者・営業研修会、2010年5月19日～21日に開催される日本コンクリート製品フォーラム(JPCF)にぜひご参加いただきたいと存じます。

JPCJ実行委員会はいわゆる業界団体ではなく、業界内連携や活性化をサポートする中間支援組織として体制を整えていきたいと考えています。8月中には組織体制を整え、来年の日本コンクリート製品フォーラム(JPCF)がしっかりした形で運営できるよう事務局を設置し、協賛企業や諸団体との連携をとりながら準備を進めてまいります。日本のコンクリート製品および業界の地位向上、財政再建等に少しでもお役に立てれば幸いです。